

【11月18日 月曜日】

・インレー湖浄化啓蒙活動(ユアマ村)

近年のインレー湖はリゾート開発が進む一方で、ゴミが浮かぶ湖の汚れが目につきます。また浮き畑で使われる農薬が垂れ流しになっている水を生活用水に使っているため、水俣病のような事例も出ています。現在インレー湖にある村では、奇形の子どもが生まれる数がミャンマー全体平均の5倍あるといわれています。このまま湖が汚れていけば、観光客は減少し、また村の人々の生活に支障が出てきます。村にゴミ箱はなく、村人はゴミが出たらそのままポイ捨てしています。その理由は、今まで食べ物はバナナの葉に包まれており、ポイ捨てしても地に帰りまた再生していたからです。しかし最近では食べ物のほとんどがビニールに包まれています。それにも関わらず、以前と同じようにそのままポイ捨てしている状況です。“子どもの時から身の周りを整えるくせをつける”ため、村の方々と一緒にゴミ拾いをし、村にゴミ箱を設置しました。またこのゴミ箱は、孤児院の子どもの自立支援の取り組みとしてできた工作工場で作った作品の第一号です。この活動の参加者はおそろいのTシャツを着て行いますが、これは参加賞としてプレゼントします。

ある家の壁に、“ゴミは拾って、ゴミ箱へ”という文字が書かれており、ゴミに対する村の人々の意識が伝わってきました。大人も子どもも一丸となって熱心にゴミを拾い、短い時間でしたがとても有意義な活動ができました。ミャンマーでは水俣病や水質汚染の問題など、日本と同じ過ちを繰り返してほしくないと思う、またこの問題を経験してきた私たち日本人が、予防法を伝えていかなければと思いました。



【11月19日 火曜日】

- ・バオ族タウンピョー幼稚園開所式
- ・バオ族の高校生への奨学金授与式

幼稚園がない村には、共通の3つの悩みがあります。1つは、お母さんが畑仕事に赤ちゃんと一緒に連れていくと、その子が蚊に刺され伝染病にかかってしまうこと。2つめは、

兄弟が赤ちゃんの面倒をみななければならないので、学校にいけないこと。3つめは、少数民族の言葉しかわからないまま小学校に入学するため、授業についていけず退学者が出てしまうことです。この問題を解決するため JAMAHA は幼稚園の材料を寄付し、その材料を使い村人たちが幼稚園を作りました。それが今回訪問したタウンピョー幼稚園です。この幼稚園建設は、すべてこちらから与えるのではなく 25%以上の村の協力が必要条件です。なぜなら自分たちの力が加わってできた物は、よりその建物を大切にでき、また自分たちで使うものは自分たちで作るという気持ちを忘れないためです。

開所式の日、村に近づくと独特の音楽が聞こえ、村全体での暖かい歓迎を受けました。あとからお聞きしたのですが、「開所式の会場に入りきれないから、一家につき一人ね。」と言ってあったのにも関わらず、村の人は幼稚園ができたことがとても嬉しく、大勢の人が集まってしまったのだそうです。この村に住む方々の暖かい心と感謝の気持ちが伝わってきて、私も暖かい気持ちになりました。そして個人的ですが、竜をモチーフにしたおしゃれな民族衣装を着させてもらったことは、私の大切な思い出になりました！

バオ族の村長さんは「教育はとても大切であり、バオ族の子どもたちにきちんとした教育を受けさせたい」という強い思いのある方です。しかし実際はお金が無ければ教育は受けられず、農家の現金収入は年収 2 万~3 万円といわれています。この状況を打開するため JAMAHA は毎年 30 万円ずつ(1 人 1 万円で 30 人の子どもへ)5 年間バオ族の村の高校生に奨学金を渡し、奨学金基金を作っています。奨学金授与式に高校一年生の子 2 人が参加しましたが、二人ともこの奨学金が無ければ高校へは行けなかったそうです。「子どもたちに正しい教育を」という考えを持つ村長さん率いる村に幼稚園ができたこと、奨学金基金が出来たことで、子どもたちの可能性の幅が大きく広がったと思います。



【11月20日 水曜日】

・ジャパンハートワチエ病院訪問

世界には医療の届きにくいところが3つあります。1つは、貧困や医師不足に喘ぐ海外。1つは、日本国内の僻地や離島。1つは、病気と闘う子どもたちのところ。この3つの場所に医療を届けることが、ジャパンハートの仕事です。今回はそのジャパンハートを立ち

上げた吉岡先生のお話をワチェ病院を訪問し、お聞きしました。現在ワチェ病院にボランティアとして参加する医師・看護師は年間 200~300 人おり、年齢は学生から学者レベルの方まで様々だそうです。

先生はたくさんのお話をして下さいました。外国人にはない、日本人のまじめさ堅実さ、相手の境遇をできるだけ理解して行動できること、自己主張をできるだけ抑えてがんばり続けられること。個人レベルでなく、組織レベルで行うことで後世にも事業が残っていくこと。長期的な計画を考えた時には、スタッフを交代で休ませながら進めていかなければならないこと。自分が「ここでやりたいと決意して覚悟をもって来たのだから、死ぬまで苦労してやろうと思う。」ということ…。

今回話された内容の中で、私は先生が今後どういった医療人を育てていきたいかという話がとても心に残りました。その内容は以下のようなものです。

「今後 TPP に参加することで、国民全員が最先端の医療を平等に受けることはできなくなるだろうと思います。しかし最高の医療を受けられなくても、最高の医師や看護師にみてもらえるように、最高の医療人を教育することに貢献したいです。」

私もこれからなんらかの形で、日本も含めた世界に貢献できるよう職業を選択していこうと思いました。そして吉岡先生が執筆された“飛べない鳥たちへ”をできるだけ多くの人に読んで頂きたいです。



【12月21日 木曜日】

- ・メミョーの市場バゴタ観光
- ・慰霊碑参拝
- ・病院跡地の国立学校見学
- ・ドーピン孤児院訪問

午前中は市場へ行きました。市場には日本では見たことがない食べ物がたくさんあり、いろいろなお店が混在してとてもおもしろいです。今回は中国でできるシャカ頭という果物を初めて食べました。お釈迦様の頭のように表面にぶつぶつがある果物なのですが、マンゴーのようにとっても甘みが強くおいしかったです。

ドーピン孤児院は小学生から高校生までの子ども 1600 人が暮らしており、そのうち 200 人が現在大学に進学しているそうです。一日のお米の消費量は大きなお米の袋 30 分だそうで、大きなお釜を 3 つ使い薪の火で炊きあげていました。おかずは普段は野菜炒めか野菜スープで、寄付が集まった時にはお肉が出るときもあるそうです。子どもたちが講堂に集まり、私たちの幸せを願うお祈りと、日本語で“幸せなら手をたたこう”を歌ってくれました。1400 人子どもたちが一気に声を出すと、聞いている私に振動が伝わってきました。その映像を何度も繰り返し見ってしまう程、子ども達の力強いパワーを感じます。JAMAHA はこの孤児院に PC 教育の普及のための支援をしています。

孤児院の子どもたちはとても元気に遊んでいます。しかし親と離れて集団生活をする子どもの心はどういった状況なのだろうかといつも思います。親の愛情をたくさん感じて育つ子どもが、ミャンマーに増えていってほしいです。



【11月22日 金曜日】

- ・ ジャパンハート Dream Train 訪問
- ・ 歯科医さんたちとの合同夕食会

ヤンゴンにはドリームトレインという、ジャパンハートが作った養育施設があります。設立して3年目で、最初は27人の子どもから始まり、現在は5歳~18歳までの164人の子どもが暮らしています。孤児院ではなく養育施設というのは、親がいない子どもではなく、片親もしくは両親がいるが、虐待を受けたり貧しくて学校へ通えない子どもを受け入れているからです。ドリームトレインの子どもは、全員シャン州という山奥出身です。山奥で暮らす貧しい家の子どもは、売春婦や人身売買の標的になりやすいため、あえてヤンゴンという遠く離れた町に施設を作っています。さらにこの施設では、子ども一人ひとりに日本人の里親がついている制度があります。里親からの毎月の仕送りや、ジャパンハートの支援で成り立っており、子ども達からは年に2回里親へ手紙を書き交流します。クリスマスに日本から会いに来る里親さんもいるそうです。現在里親さんが30人待っている

状態で、この施設では子どもを250人まで受け入れる予定です。また、第二施設を作る予定もあるそうです。

子ども達には学校へ行っていたのでほとんど会えませんでした。高校二年生の受験をひかえた子どもたちが授業を受けているところをみる事が出来ました。それを教えていた先生は大学進学が決まっている17歳の子で、とても驚きました。ボランティアで週に2日程教えに来ていて、その先生の夢は裁判官だそうです。これはミャンマーの子ども達に共通することなのですが、明確な将来の像が決まっていて、はっきりと公言できるという事は素晴らしいことだと思います。

夕方には歯医者さんたちと合流した合同夕食会で、孤児院の訪問検診の活動内容をお聞きしました。多い日は一日500人の子どもの検診をしたとおっしゃっており、孤児院のまわりの家の子どもも、みてほしいと来るのでどんどんと増えるそうです。子どもでも歯垢が多くある子もあり、歯ブラシを使っていない可能性がある子、家族と同じ歯ブラシを使っているため病気がうつる可能性がある子がいたそうです。一日で場所を移動してしまうため、難しい治療はできないので、詰め物をする事が基本で、たまに抜歯することもあります。

吉岡先生のお話をお聞きした時にも思いましたが、専門的な技術を持っている人は、日本でも海外でも関係なくグローバルに活躍できてすごく素敵だと思います。私は専門的な技術を持っていないので、まずは英語を勉強して世界の人とコミュニケーションをとれるようになりたいです。



【11月23日 土曜日】

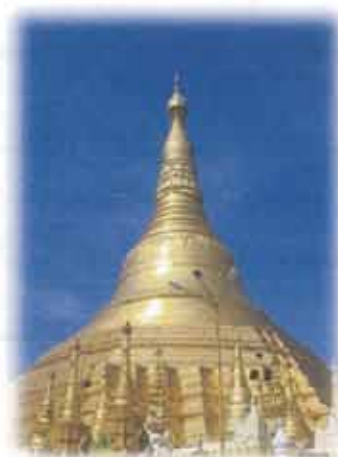
- ・シュエダゴンパゴタ、寝釈迦様、白い象見学、観光
- ・ガーデンパーティ

ミャンマーのいちばん有名なパゴタ、シュエダゴンパゴタの中にはお釈迦様の髪の毛が埋め込められているそうです。なぜこの形なのかというと、元々は菩提樹の葉の形からきている

とされていますが、もうひとついわれがあります。この形は欲を表しており、若い時は欲がとても多く、だんだん年をとるにつれて欲は無くなっていき、一番てっぺんには世界で一番固く美しいダイヤモンドにたどりつく、という事です。また、なぜお祈りする時に手を合わせるのか、日本ではしわとしわを合わせて幸せなど言われますが、ミャンマーでは以下のことを誓うことを合掌は表しています。指は合計10本あり、一つ一つに守る事柄が決まっています。まず左手の親指から、①嘘をつかない②生き物を殺さない③人の物を盗まない④みだらな行為をしない⑤お酒を飲まない。つぎに右手は大切にするもの5つです、親指から①お釈迦様②お釈迦様の教え③お坊さん、僧侶④両親⑤前世。これをお釈迦様に誓います。この思想が根付いているので、ミャンマーの盗難率は日本より低いというデータがあるのではないかと思います。

午後からは10月にオープンした、水谷さんのお店のヤンゴン支店‘和み’でマッサージを受ける組とショッピングセンターへ行く組とふたてに分かれて行動しました。‘和み’は盲目の障害を持つ人の就労支援を担うお店です。

夜にはガーデンパーティーにご招待頂き、とても美味しい料理をふるまっていただきました。一週間を共に過ごした皆さんとの最後のご飯で、とても楽しい時間でした。



【ミャンマーの現状】

現在ミャンマーでは土地価格が急上昇しています。ヤンゴン市内のマンションの家賃が2倍以上になるのは普通だそうです。これは海外の企業がいくらお金を出してもいいから、ヤンゴンに事務所を借りたいという為であり、一般市民は引っ越しを余儀なくされています。

また、土地価格の上昇は田舎の方でも見られます。こちらは、外国人が土地を大量に買い占め、転売して儲けようとしている事が原因です。これには大きな問題があります。農家の現金収入は月収2~3万円と言われています。そういった家庭に、あなたの農地を例えば300万円で買いたいから売って欲しいといわれると、普段の収入の100倍もらえると思えば、農地を売ってしまうのだそうです。しかしよく考えれば、これからの家での農作

物ができないため食費が増える、子ども達の職業がなくなる、お金があると思い携帯電話や車を買ってしまい、お金が無くなる…といった困る事ばかり出てきてしまいます。自分の利益しか考えていない人がする事の、被害に遭う人がこれ以上増えて欲しくないと思います。

ミャンマーでは今年12月に、東南アジアの国11か国が参加する東南アジア五輪が開催されます。これに向けて、電力の安定供給のための設備や、1年半前には1つも無かった銀行ATMが多く設置されていました。またネピドー・ヤンゴン・マンダレーを繋ぐ、高速道路が整備されていました。とはいっても、その高速道路には人も牛車も自転車もバイクも走っていて、日本の高速道路とはイメージが違いましたがコンクリートできれいに整備されていました。

前回訪れた時とは、ヤンゴンの雰囲気はとても変わっていました。スマートフォンを持つ人が多くいたこと、ハイブリットカーが走っていたこと、ケンタッキーやロッテリアが街中に出来ていたことにも驚きました。毎日どんどん豊かな国になっている事を、人々が楽しんでいるような雰囲気でした。



【おわりに】

このツアーに参加しなければ出会えなかった方々と色々なお話が出来たこと、ミャンマーの方との繋がりが出来たことが、私の宝物です。ミャンマーはとてもフィーリングが合い、また来たい！と毎回思います。自分の周りの人にも一度ミャンマーへ行ってみたいと思います。友人が興味を持てるように、私が持っている情報をどんどんと発信していきたいです。

今回の旅行ではたくさんの方にご迷惑をおかけしてしまい、本当にすみませんでした。ミャンマーへ行くことができて本当に良かったです。毎回素敵なプランを考えてくださる豊友会の皆様、同行させて頂いて本当にありがとうございました。今後ともよろしくお願ひ致します。